

世界の工業⑤ ～ラテンアメリカ～

ラテンアメリカ諸国の中で、工業化が順調に進んでいるのが、**メキシコ**と**ブラジル**(ラテンアメリカNIES)であり、資源(石油や石炭・鉄鉱石)&外資導入&豊富な労働力(人件費)の安さが特徴的である。

(1)メキシコ

資源

メキシコは銀鉱の産出量が**世界1位**である。(約20%)
またメキシコは**油田**が豊富である。(産出量世界7位)

- ① _____
② _____ (テワンテペク地峡部)
③ _____ (カンペチェ湾)

※OPECには未加盟である。

輸出額に占める割合(2010年)

電気機械(29.3)自動車(17.3)原油(12.0)一般機械(8.6)精密機械(3.0)

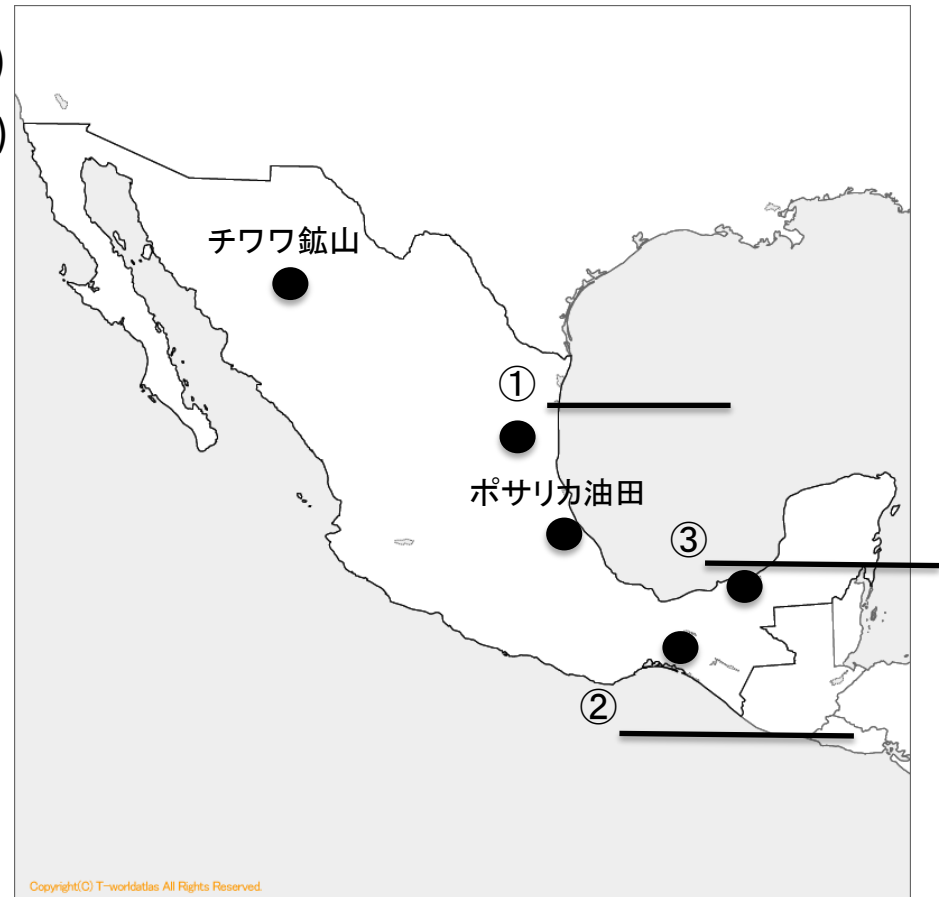
その他

豊富な労働力を背景にした輸出加工区の設定

- ④ _____ (輸出加工区)という。

1994年 ⑤ _____ 発行

→アメリカ・カナダ・メキシコ間で調印された3国内におけるすべての貿易に関税を廃止しようとするもの。



(2)ブラジル

資源

ブラジルは鉄鉱石の産出量が**世界3位**である。(2010年)

※輸出量は世界2位。

① _____

イパチंगाに日本との合併でウジミナス製鉄所が建設される。

ビトリアに日本・イタリア合併のツバロン製鉄所が建設される。

② _____

サンルイスが積出港となっており、内陸部のガラシャスからは鉄道によって運ばれている。

輸出額に占める割合(2010年)

鉄鉱石(14.6)原油(8.3)肉類(6.7)砂糖(6.5)一般機械(6.0)



確認問題

中南米に関する記述として最も妥当なものはどれか。

- 1.メキシコは、カリフォルニア湾岸に面したタンピコやポサリカ等で石油の産出が盛んであるとともに、メキシコ高原では金が産出され、同国は世界有数の金輸出国である。また、外国企業を誘致し国内で保税加工するマキラドーラ制度により、アメリカ合衆国との国境付近には工場が多数建設されている。
- 2.キューバは、1959年後の改革後に社会主義国となり、産業及び経済のほぼ全般が国有化され、国策として計画的に工業化が進められた。その結果、現在は産業構造の質的転換を果たし、輸出の約半分を工業製品が占める等などモノカルチャー経済から脱却した例と言ってよい。
- 3.ベネズエラはカリブ海に面した赤道以北に位置する主要な産油国の一つである。特に、マラカイボ周辺やオリノコ川流域等に点在する油田で産出される原油及び石油製品が輸出の大半を占めており、石油輸出国機構(OPEC)に加盟している。
- 4.ブラジルは、鉄鉱石の埋蔵に富み、イタビラやカラジャスで産出される鉄鉱石は先進国に輸出されている。また、南側のパンパと呼ばれる草原に展開される大農場においてコーヒー栽培が盛んであり、最近10年間をみると、同国の輸出額に占める割合でコーヒー豆が首位を保ち続けており、世界有数のコーヒー輸出国である。
- 5.アルゼンチンは、アンデス山脈の東側に南北約4300kmのおよび、かつてはアタカマ砂漠で硝石の生産が盛んであったが、現在では生産が低下している。また同国は銅の産出国でもあり、チェキカマタやエルテニエンテ等の鉱山で産出され日本等に輸出している。